

第3回秋田市雄和地域公共交通研究会議事録

開催の日時 平成20年11月11日(水)午後3時から5時まで

開催の場所 雄和地域活動センター大会議室

委員の定数 18名

出席委員 12名

議 題 (1) 雄和線・雄和循環バス等の路線廃止について
(2) 雄和地域の代替交通について

事 務 局 開会の言葉

事 務 局 アドバイザー委員の紹介

会 長 挨拶
教授を紹介

事 務 局 「雄和線・雄和循環バス等の路線廃止について」の説明

委 員 過去2回研究会に参加しており、この研究会では雄和地域および岩見三内地区の公共交通について協議を行い、この地域の代替交通について検討してきた。今回、平成21年9月30日での雄和線等の路線廃止を申し出たものである。仁井田四ツ小屋線については、代替交通と一緒に検討した方が良いと考えられたため、廃止の申し出を行ったものである。これに関係する路線では約3,000万円の赤字が発生しており、この赤字に中央交通が耐えられないものである。したがって、これらの路線については行政の関与のもと、代替交通を運行してほしいと考えている。

会 長 何かこの件について意見等はないか。

委 員 中央交通はどういった経緯で雄和に入ってきたのか、また、今なぜ廃止しなければならないのか。この路線は廃止して新しく考えるのか、中央交通の路線が新たに引かれることがあるのか。

委 員 雄和に入ってきて経緯は分からないが、当初ユーグルの赤字については全額補填であったと聞いている。合併により、秋田市の制度となり赤字額の1/4は中央交通の負担となった。バス事業者の経営は厳しく赤字を減らさないといけないため、行政に代替交通をお願いするものである。北部の代替交通の際には、当社も入札に参加したが、キングタクシーとなったものである。

会 長 中央交通から撤退の申し出について市としてはどのように考えているのか。廃止と考えているのか、廃止で進めたいと考えているのか。

事 務 局 平成17年度に郊外部の不採算路線に関する代替交通導入計画を策定しており、西部、北部と順次導入してきた。路線廃止は最終的には中央交通が決められていることであり、雄和線、ユーグル、岩見三内線は計画に上がっているものであり了解している。

委 員 路線廃止は半年前に届出をすれば出来るものである。今回は一年前に出しており、この期間で代替交通の準備が出来るものと考えている。会社としては赤字削減が必須である。仁井田四ツ小屋線は代替交通と一緒に検討した方が良く考えたため、今回廃止ということで上げさせてもらった。その他の路線は重複しており、影響を受ける方は少ないものと考えている。

委 員 中央交通の説明では代替交通の検討が始まったから廃止をするように感じられ、責任逃れに感じられる。役所側も全額補填できないから代替交通などの対応が必要であると言った方がよいのではないか。この会で廃止を承認してもらいたいかに思えて躊躇される。路線は廃止されるのか、しないのかははっきりしてほしい。

会 長 このことについて説明してほしい。他に何かないか。

委員 廃止か、存続する余地があるのその点をはっきりしてほしい。

事務局 第一回目の資料にあるとおり、平成16年度の計画で20年度に雄和線、ユーゲル、岩見三内線の代替交通に取り組むこととしている。郊外部の路線は、路線の統廃合が出来ず、収支改善が望めないため代替交通の導入の検討としているものである。その計画に基づき、この研究会を立ち上げたものである。

教授 それぞれのスタンスで言い合っても仕方がない。路線廃止という共通認識を持つべきである。次の代替交通の説明を聞いて今後のあり方を検討した方が良くと思うがどうか。

会長 木村教授から先に進めてはという話があった。そのように進めたいと思うので説明をお願いします。

教授 「雄和地域の代替交通について」について説明要旨
今回は御所野交通広場を起点として2つのコースを設定した。資料に示す点線部分は利用者が少ない部分である。今回は4つの案を検討してきており、ユーゲル維持型の定期路線型、ゾーンバス型の定期路線型、デマンド交通型、定期路線とデマンド交通を組み合わせたものである。資料に基づき、それぞれの特徴を説明した。現実的には運行形態として採用される可能性が高い、デマンド交通型の代替交通について、運賃の上限を500円に設定したものの収支計算を示した。また、収支の基準として秋田市のもっとも低い営業係数が200円を収支の基準にしたらどうかという提案をし、これを超えるようであれば、運賃改定をしてはどうかという提案をした。運行に供する車両は、マイクロバスを6両購入するし、5年平均でならず試算条件も示した。収支の結果は補助金が4,500万円程度、営業係数は約200円という試算結果となった。

会長 何か質問はないか。

委員 起点は御所野のどこと想定しているのか。

教授 雄和から病院に行く利便性を考えて御所野の交通広場を想定している。

委員 御所野から日赤病院、御野場は中央交通の既存路線としてあるが、どう考えているのか。

教授 路線の競合については特に解決策はない。直行すれば利便性は向上するのでその可能性を排除しないために設定した。

委員 御所野といえば車で買い物というイメージがあり、バス利用者であれば病院とか、通学者であれば四ツ小屋駅とかが良いものと考えている。御所野を起点とした理由を聞かせてもらいたい。

教授 今回、御所野を起点にした理由は交通広場があって拠点にしやすいからである。今後、地元との話し合いの中で拠点は検討されていくべきものであると考える。

委員 少しぐらい料金が高くても乗り継ぎは嫌だという人が多いものである。乗り継ぎをなくすことはできないか。朝夕は大型バス、日中はデマンド型でというのはどうなのであるか。

教授 アンケート結果から乗り継ぎが不評なことは理解している。既定路線と競合するのは難しいため最低一回は乗り継ぎが必要なものである。路線を長くなると車両も必要になる。複合案については具体的な数字を持ち合わせていない。予約を柔軟にすることで利用者を増やすような仕組みにした方がよい。

委員 収支の試算で欠損金が4,500万円ほどだが、この金額を今後も国、県で支えていけるのか。

事務局 営業係数200円が市内で一番悪い数字なので基準になるものと考えており、対外的にも説明できるものである。

委員 この営業係数で今後も続けていけるのか。

事務局 センターから中ノ沢まで500円という設定は、他の地域では770円になるもの

であり、その程度で済んでいることになる。営業係数が悪化すれば、便数を減らして経費を削減するか、料金を値上げすることとなる。

会 長 ここで今までの内容でなにかアドバイザー委員から何かあるか。

教 授 この代替交通案は、大学の講座として出させてもらっているが、秋田市の公共交通として地域間のバランスが取れているものと考えている。代替交通については地域からアイデアにより活性化する方が良いものと思う。

会 長 アドバイザー委員の専門官から何かあるか。

専 門 官 廃止の申し出が出された路線は、事業者、行政では維持できなくなっているということである。地域の足を確保するため、若干の負担は覚悟しつつ、受益に見合ったコースとしていくことが大事である。

会 長 議題1も含めて何か意見はないか。

専 門 官 利用者が減少しているが、地域でも利用者を増やす取り組みが必要であり、このことと公共交通を使いやすい形にすることが大事なことであると思う。

委 員 中央交通は赤字だから廃止するというのは当然であると思う。現状のまま続くものでないという意識改革が必要かと思う。今回の案では今後の人口減少を見込んでいないのか。

教 授 今回の、現状で試算しており、人口減少は加味されていない。

委 員 今後の人口動態を加味して試算することが必要なのではないかと思う。

委 員 ユーグルの廃止はやむを得ないと理解した。今後の検討は、代替交通をどのような形にするかを議事にして進めていくのはどうであろうか。

会 長 今回は4案が示され、この場では結論づけは出来ない。これ以外の選択や良いアイデアもあるのではないかと思うので時間を置いて考えてもらうこととしたいがどうか。

委 員 ユーグル廃止は反対しないが、雄和にバスが入らないことには抵抗がある。

会 長 次回に検討を持ち越すことになるが、いろいろな意見を出すことが可能であると思うので次回は12月の半ば過ぎに開きたい。

委 員 中央交通に聞きたいのであるが、広面御所野線は日に何本あるのか。

事 務 局 広面御所野線は30分に一本ぐらいある。

専 門 官 (オ
- ガ
- ー
ハ
ル
)

案では車両が500万円となっているが、バリアフリーなどの路線バス車両では1,500万円程度かかるものである。市町村によっては、緑ナンバーより白ナンバーでということもある。原価を知る必要があると思うので次回まで知らせてほしい。原価を知ることで地域で負担する金額の基準が分かるのではないかと思う。

会 長 何か他に何かあるか。なければこれで今回は終了とする。

- 議事終了 -

事 務 局 次回は12月中旬とする。